

## PRAEVIDENTIA DAILY (11月28日)

## 昨日までの世界：ユーロ圏のデフインフレ再開でユーロ安、OPEC 減産見送りでカナダドル安

昨日は、米感謝祭休場で追加材料が少ない中で、アジア時間中はドル/円の調整が継続し、一時 117.22 円まで下落した。もっとも、その後欧米時間には自律反発し、117.88 円まで戻して概ね同水準で引けている。

ユーロは、スペイン 11 月 HICP が前年比-0.5%と前月および市場予想 (-0.2%) を大幅に下回ったほか、ドイツも+0.5%と前月 (+0.7%) および市場予想 (+0.6%) を下回ったことから 1.24 ドル台半ばへ軟化した。但し 11 月 24 日に 1.23 ドル台半ばの安値を付けた後の反発基調は続いており、前日安値には届いていない。

カナダドルは、OPEC 総会で減産見送りが確定したことから、原油価格の大幅続落と共に下落、対米ドル相場は 1.125 ドルから 1.135 ドルへ上昇した(カナダドル下落)。原油安を受けて、ロシアルーブル、メキシコペソ、ノルウェークローナなど他の産油国通貨も下落している。

## 主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.0	-0.8	-6.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	+0.00	+0.00	+0.00	-0.03	-0.03	+0.00	+0.6	+0.0	-0.06
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.4	-0.04	-0.04	+0.00	-0.06	-0.06	+0.00	-0.1	+0.0	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.1	+0.01	+0.01	+0.00	-0.03	-0.03	+0.00	+0.0	+1.0	+0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.1	+0.00	+0.00	+0.00	-0.03	-0.03	+0.00	+0.0	+1.0	+0.0
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.8	+0.04	+0.00	-0.04	+0.04	+0.00	-0.04	+0.0	+0.0	+0.0

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

## きょうの高慢な偏見：ドル/円の上昇基調復活なるか

## きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 10 月コア CPI 前年比	8 : 30	+3.0%	+2.9%	消費増税分は 2.0%ポイント
本邦 10 月鉱工業生産・前月比	8 : 50	+2.7%	-0.6%	
NZ・NBNZ 景況見通し	9 : 00	26.5		
豪 10 月民間与信・前月比	9 : 30	+0.5%	+0.5%	
英 10 月ネーションワイド住宅価格前年比	16 : 00	+9.0%	+8.6%	
<b>ユーロ圏 11 月 HICP 前年比・速報</b>	<b>19 : 00</b>	<b>+0.3%</b>	<b>+0.3%</b>	
イタリア 11 月 HICP 前年比	19 : 00	+0.2%	+0.2%	
ブラジル 3Q GDP 前期比	20 : 00	-0.6%	+0.3%	
カナダ 3Q GDP 前期比年率	22 : 30	+3.1%	+2.1%	

<30日>

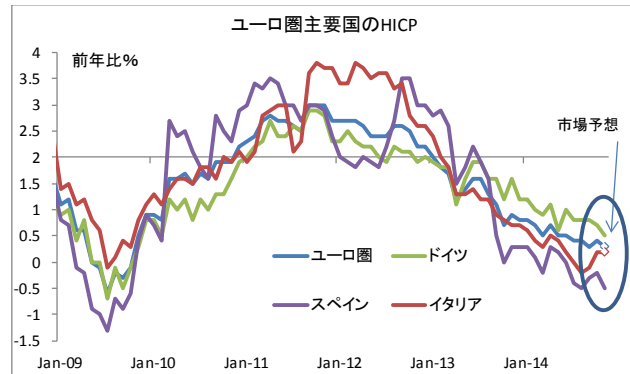
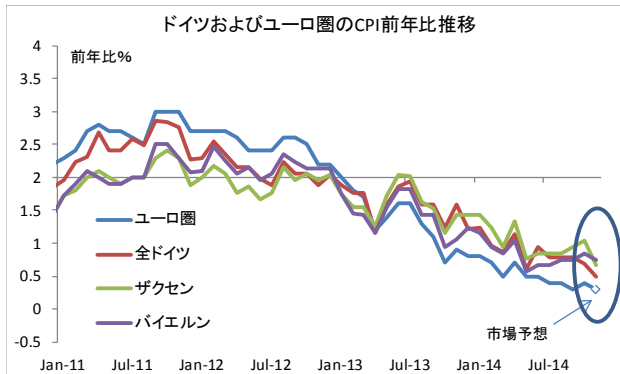
スイス、SNBの金売却を巡る国民投票

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日はまず、25日に119円乗せに失敗した後3日間連続で調整が入り117円台前半へ下落したドル/円が復活

するかが注目だ。本日はコア CPI その他本邦主要統計以外にドル/円の直接的な材料がなく、日銀は既に 10 月末に追加緩和を行ったばかりで、目先は多少の経済指標の振れでは追加緩和期待には結びつかないため、本邦経済指標はドル/円を大きく動かすことにはなりにくそうだ。とは言え、日米金融政策の対照性や GPIF を使った本邦政府の明確な円安政策を踏まえると、ドル/円の方向性は今のところ上昇方向で変わっておらず、上昇基調に戻るのには時間の問題だろう。

ユーロ圏では再びインフレ指標が注目だ。昨日、ドイツ(前年比+0.7%→+0.5%)およびスペイン(-0.2%→-0.5%)といずれも市場予想を下回ったことから、ユーロ圏分(前月および市場予想共に+0.3%)も下振れリスクがあり、ユーロ下押し要因となる可能性がある。とは言え、既にスペイン分発表以降ユーロは下落していることから、既にユーロ相場はユーロ圏分 HICP 下振れをある程度織り込んでいるかもしれない。



#### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者(投資助言・代理業)関東財務局長(金商)第2733号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641